

同時資料配布先：

経済産業記者会

学研都市記者クラブ

2022年5月13日

公益財団法人地球環境産業技術研究機構

CO₂分離素材を評価する国内初の実ガス試験センターの設置・運営に向けた検討を開始
～グリーンイノベーション基金事業に採択～

公益財団法人地球環境産業技術研究機構（本部：京都府木津川市、理事長：山地憲治、以下「RITE」）は、国立研究開発法人産業技術総合研究所（本部：東京都千代田区、理事長：石村和彦、本事業実施場所：宮城県仙台市（東北センター））と共同で、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）から「グリーンイノベーション基金事業／CO₂の分離回収等技術開発プロジェクト／低圧・低濃度 CO₂分離回収の低コスト化技術開発・実証／CO₂分離素材の標準評価共通基盤の確立」（以下「本事業」）の採択を受けました。世界で拡大する CO₂分離回収市場において、産業競争力を強化してシェアを拡大するため、共通基盤として CO₂分離素材を実ガスを使って性能評価できる技術を構築し、カーボンニュートラル社会の実現に貢献します。

本事業は、2022年から2030年までの9年間、総事業費約24億円を予定し、以下の研究開発項目を実施します。

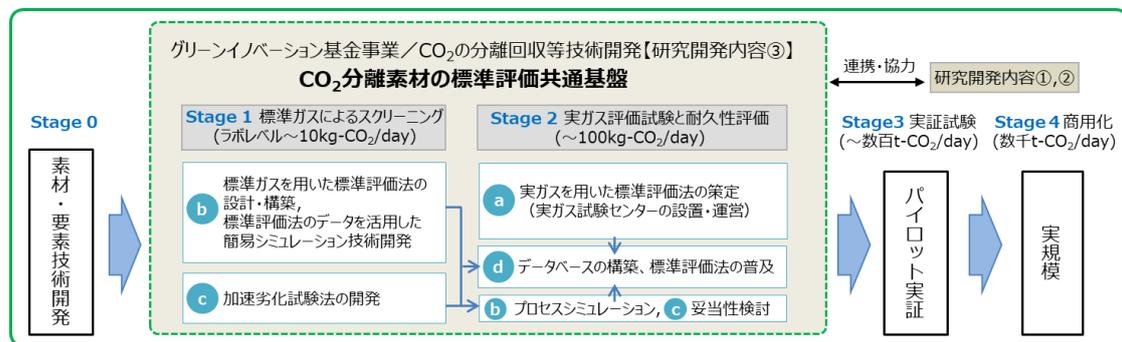
- a. 実ガスを用いた標準評価法の策定（実ガス試験センターの設置・運営）
- b. 革新的分離素材開発に向けた標準評価法の確立
- c. 耐久性評価手法の開発
- d. データベースの構築と標準評価法の普及

RITEは発電所排ガスおよびボイラー排ガス等を想定した燃焼排ガスを共通に評価できる実ガス試験評価装置を本部研究所内に設置し運営します。また、基本性能評価、経時変化評価、スケールアップに向けた評価の策定・普及を行います。

近年、カーボンニュートラルに向けた CO₂分離素材の開発において、世界では共通基盤の確立が進んでいますが、わが国ではそのような基盤が整備されておらず、共通に評価できる装置の設置・運営体制が求められています。本事業を通して RITE では CO₂分離素材を実ガスを使って評価する標準技術を確立します。CO₂分離素材開発に関わる皆様方に広く活用していただける国内初の実ガス試験センターを RITE 内に設置する予定です。今後も我が国が CO₂分離回収技術において世界のトップランナーであり続けられるよう、RITE は本事業を通じて、国内の CO₂分離素材開発の促進と国際標準化に向けたデータベースの蓄積・拡充に貢献します。

RITE は、1990 年のヒューストンサミットにおいて我が国が提唱した「地球再生計画」に基づき、地球温暖化問題に対する革新的な環境技術の開発などを国際的に推進する中核的研究機関として設立され、CCS(Carbon Capture and Storage)技術やバイオリファイナリー技術の開発、温暖化対策のシナリオ策定など、地球温暖化問題に特化した独自性の高い研究を行っています。これまでの知見を踏まえて、引き続き地球温暖化防止に資する研究開発を強力に推進し、2050 年カーボンニュートラル達成に向けて貢献して参ります。

図 事業イメージ (参考)



以上

この件に関する報道機関からのお問い合わせ先 :

公益財団法人地球環境産業技術研究機構 企画調査グループ 樋口、辰巳

TEL : 0774-75-2301 E-mail: pub_rite@rite.or.jp